

普及活動情勢報告（令和6年7月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

病害虫の効果的な防除・農薬の適正使用を！ ～ニラ講習会で説明～



ニラの病害虫対策等について説明をする普及指導員

6月18日、須崎市立文化会館で、(株)須崎青果主催のニラ講習会が開催され、農家や関係機関16人が参加しました。

農業改良普及課は主要病害虫対策、農薬の適正使用について説明しました。

参加者からは、「ネギアザミウマに有効な農薬はないのか」、「殺虫剤の作用機構について教えて欲しい」、「今作はナメクジの被害（食害、異物混入）が多く、有効な対策はないか」等の質問がありました。

農業改良普及課は、今後も病害虫の効果的な防除、農薬の適正使用を推進します。

直販所の農産物の安全確保に努めましょう ～農薬適正使用と生産履歴記帳の啓発～



直販所の運営担当者等に説明する普及指導員

6月19日、JA土佐くろしおで、須崎・津野山・中土佐地区農産物直販所安全安心ネットワーク研修会を開催し、管内に店舗のある直販所の運営担当者等11人が参加しました。

農業改良普及課は、農薬適正使用と生産履歴記帳について啓発を行い、各直販所の生産履歴の配付、回収状況及び課題等について情報交換を行いました。

参加者からは、「総会や集荷時に農薬の説明や生産履歴の帳簿の回収をしている」、「生産者の高齢化や農薬の使用が少ないため、簡易な帳簿を活用」、「生産履歴記帳の取り組みを推進する良い機会になった」等の意見が出されました。

農業改良普及課は、今後も研修会の開催や生産履歴の作成支援を行い、直販所の農産物の安全確保を推進します。

ミョウガ栽培の魅力を伝えるために ～高知県立梶原高校で出前授業を開催～



ミョウガについて説明する普及指導員

6月20日、津野山地域営農連絡協議会が、梶原高校とミョウガ作業場で、梶原高校農業コース2年生を対象にミョウガに関する出前授業を開催し、生徒12人が参加しました。

農業改良普及課は、ミョウガの生産状況、経営実態、IoTの取組及び環境制御機器の説明を行いました。

生徒からは、「ミョウガは1パックいくらで売れるのか」、「ハウスを建てるのに補助があるのか」などの質問が挙がりました。

農業改良普及課は、今後も農業コース2年生を対象に、地域で栽培されている品目の魅力を伝える出前授業を開催します。

SAWACHI への関心を高めるために ～ミョウガ出荷目慣らし会で実演～



SAWACHI を紹介する普及指導員

6月21日、津野山園芸部みょうが部会が、JA高知県高西営農経済センター「輝」で出荷目慣らし会を開催し、20人が参加しました。農業改良普及課は、SAWACHIの紹介とスマホを使った環境データの表示の実演、熱中症対策の説明を行いました。

参加者の多くは、SAWACHIの実演に興味を示し、データを提供してくれた生産者との間で質疑が交わされました。JAから、SAWACHI加入の誘導もあり、部会全体の関心が高められたようでした。

農業改良普及課は、今後もJAとともに、生産部会に対してデータを活用した営農を働きかけ、SAWACHIの加入推進と加入者へのフォローアップを行います。

米ナス青枯病対策 ～土壌還元処理と土壌くん蒸消毒を組み合わせた青枯病対策の実証～



青枯病発生状況について情報共有する普及指導員ら

6月21日、津野町米ナスほ場で、青枯病対策試験の効果を、実証農家1人と関係機関等5人が確認しました。

農業改良普及課は、実証ほの青枯病の発生状況、産地の青枯病の発生状況と米ナスの生育状況を説明しました。

実証ほでは青枯病が発生しており、対策の効果が明確には見られないことを、参加者全員で確認しました。

実証農家からは、「発病株が少し増えてきているが、自分にできる管理を引き続き頑張っていきたい」との声がありました。

農業改良普及課は、今後も関係機関等と連携し、月2回の病害発生調査を継続して土壌還元処理と土壌くん蒸処理を組み合わせた青枯病対策の効果を検証します。

女性農業者の活躍を目指して ～第1回地域講座（労務管理講座）を開催～



普及指導員の進行で地域講座を開催

6月27日、JA土佐くろしお本所で、第1回地域講座（労務管理講座）を開催し、女性農業者等8人（うち男性2人）と関係機関6人の合計14人が参加しました。

農業改良普及課の進行で、まず社会保険労務士より、労務管理の目的・必要性、労働・社会保険制度について説明後、農業改良普及課から、補助事業等の情報提供を行いました。

参加者からは、健康診断や始業終業時間の記載方法、労働契約を結ぶ時の任意事項等について質問がありました。

農業改良普及課は、今後も女性農業者等を対象に、経営管理能力の向上や交流を目的とした地域講座を開催します。

親元就農の推進 ～JA 土佐くろしお生産部会で親元就農支援策を周知～



親元就農の支援策を説明する普及指導員

7月8～12日にミョウガ部会目慣らし会が、7月16日に露地・雨よけししとう部会出荷始め総会が、JA 土佐くろしお出荷場及び道の駅で開催され、ミョウガ生産者172人、シシトウ生産者40人が参加しました。

農業改良普及課は、親元就農支援策等をまとめたリーフレットをもとに、拡充された支援策等について説明しました。

参加した生産者から、事業要件等について質問がありました。

農業改良普及課は、今後もきゅうり部会、ハウスシシトウ部会、ニラ部会に親元支援策を周知し、親元就農を推進します。

収量・品質の向上を目指して ～JA 土佐くろしおミョウガ部会目慣らし会～



栽培管理の注意点について説明する普及指導員

7月8日～12日にかけて、JA土佐くろしおミョウガ部会が、大間出荷場等で目慣らし会を開催し、生産者172人が参加しました。

農業改良普及課は、昨年と今年の外気温・日射量の推移を比較しながら、今後の栽培管理の注意点についてアドバイスしました。また、GAP、BCP、就農支援策についての情報提供と、SAWACHI加入の呼びかけを行いました。

参加者からは、草勢管理についての意見が出されました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、巡回指導・調査研究を通じて、栽培管理技術の向上を支援します。